

事務事業事後評価シート[平成29年度事業]

1. 基本情報

■事業の担当課	農林部農業振興課		■担当係	水田宮農係
■評価事業名称	農業後継者育成対策事務			
■事業開始年度	平成3年度			
■評価事業コード	050200 - 302	■会計区分	一般会計	
■総合計画での位置づけ	■政策	03 ひと・技・資源を組合せ活気うまれるまちづくり		
	■基本施策	04 地域産業を担う人づくりと雇用環境の向上		
	■施策	04 農林業の担い手等人材の育成支援		
■事業の種類	05 ソフト事業(任意)		■政策・業務区分	政策
■法令の根拠区分	法令に特に定めのないもの			
■法令等の名称				
■関連計画の名称	北上地方新規就農者確保・育成対策プラン(北上地方農林業振興協議会)			
■事業の目的と概要	意欲ある農業後継者の育成。農業後継者の各種活動支援事務			

2. 細事業の活動実績情報

細事業コード	細事業名称	事業の対象	平成29年度事業計画	平成29年度事業量実績
01	農業後継者育成対策事務	農業後継者	新規就農相談受付 随時 農振協 就農体験事業 1回 青年農業者対象意見交換会への出席 国・県からの各種研修会等の周知	・「新農業人フェアinいわて」従事2回・ 新規就農相談会開催1回 ・青年農業者対象意見交換会出席1回・ 4Hクラブ総会・役員会9回

3. 投入コスト情報

(単位:千円)

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	備考
直接事業費	3	10	4	19	
人件費	402	1,340	676	3,281	
その他(公債費・減価償却費等)					
フルコスト	405	1,350	680	3,300	

4. 評価指標等の状況

指標コード	指標名	26年度	27年度	28年度	29年度	指標の説明
	就農促進にかかる担当者会議への出席、県立農大生との意見交換会への参加	1	1	1	1	就農促進にかかる担当者会議への出席、県立農大生を参集する意見交換会等の催事への参加
	北上4Hクラブの総会、役員会、催事への参画	10	10	16	12	北上4Hクラブの総会、役員会、催事等への参画

事務事業事後評価シート[平成29年度事業]

新規就農者数の増加	11	15	15	10	就農促進に係る市町村等担当者会議資料「市町村別の新規就農者確保状況」より
-----------	----	----	----	----	--------------------------------------

5. 事後評価(「政策」事業類型5・6のみ)

■目標達成状況

- A. 順調
- B. 概ね順調
- C. 遅れている

達成状況の分析

平成29年度に市単独では初の新規就農相談会を開催し、市内外から12名の相談があった。また、北上4Hクラブの会合に積極的に参加し、若い農業者を支援した。

問題点・課題等

農業者の高齢化が進んでいる。また、他産業も含めて人手不足の状態にある。

1. 直接的な受益者の範囲

- 不特定多数に及ぶ
- 特定されるが多数に及ぶ
- 特定少数に限定される

2. 国・県・民間との競合関係の有無

- 類似の事業はない
- 類似の事業はあるが競合はない
- 類似の事業があり競合する

3. 事業廃止の影響

- 大きな不利益やリスクが生じる
- ある程度の不利益やリスクが生じる
- 不利益やリスクは小さい

4. 市民生活・企業活動への影響

- 市民生活・企業活動の維持に不可欠
- 市民生活・企業活動の維持の向上に必要
- 市民生活・企業活動の維持の向上への影響は少ない

5. 事業廃止の影響を受ける受益者の割合

- 1. で選択した人の大多数(70%程度)
- 1. で選択した人の半分程度(50%程度)
- 1. で選択した人の少数(30%程度)

6. 事業へのニーズの変化

- ニーズが高まっている
- ニーズは変わらない
- ニーズが低下している又は合致しない

7. 施策の改善需要度(市民意識調査)

- 順位が高い
- 順位が中程度
- 順位が低い

8. 施策の優先度(市民意識調査)

- 順位が高い
- 順位が中程度
- 順位が低い

9. 他市町村に比較しての優位性

- 先進的またはユニークな事業である
- 他と同程度の事業である
- 遅れている事業である

10. 実施主体の代替性

- 民間委託等の拡充は難しい
- 民間委託等の拡充が十分に可能
- 全部委託や実施主体の移行が可能

11. 経済性・効率性の向上

- 今以上の効率化や改善は難しい
- 効率化や改善を図ることは十分に可能
- 効率化や改善の余地が大きい

■事業の見直し方策(評価項目2,4の補足説明含む)

農業人口が減少している中、新規就農対策、後継者育成対策は今後も必要である。

■今後の方向性

- I. 拡充
- II. 継続
- III. 縮小
- IV. 廃止・休止
- V. 完了